

観察ガイド

みごろ

多くの種類を観察するには、植物の生育が盛んな夏季が最も適した時期といえます。花は春から秋にかけて次々と咲くので季節によって海岸の表情も違って見えます。崖海岸の植物は夏から秋にかけて花を咲かせるものが多いので、常磐沿岸では8～11月頃がみごろとなります。砂浜の植物は春から夏にかけて花を咲かせるものが多く、鹿島灘沿岸は5～8月がみごろとなります。

観察のしかた

砂浜では

植物が広く生育しているところを見つけます。起伏のある砂浜の方が植物の種類が多いので、地形にも注意してみてください。観察場所が決まったら、波打ち際から内陸へ向かって歩いてみます。海からの距離や高さが変化するにつれて、生育している植物の種類も変わってくるので、名前を調べたり写真を撮ったりして記録しておきましょう。

崖海岸では

斜面に生えている植物は、下から見上げるようにして観察します。高いところの植物は双眼鏡などを使うとよいでしょう。崖の傾斜や高さ、風当たり、日当たりなどによって植物の種類が変わるので生育地の状況も記録しておきましょう。崖上へは内陸側からまわっていきます。環境が安定して植物の種類も多いので名前を調べてみましょう。

海岸植物は厳しい自然条件のなかで生育しているため、わずかな環境の変化によってダメージを受けてしまいます。観察を行うときには植物を傷つけないように注意して下さい。



砂浜での観察



崖海岸での観察

砂浜の植物

砂浜の植物



ハマヒルガオ
ヒルガオ科

つる性の多年草。地下茎は砂中に長く伸び、地上茎は砂上をはう。5～6月に淡紅色で漏斗状の花をつける。まれに内陸の湖岸や河原にも生える。県内では砂浜を中心に広く分布する。



コウボウムギ
カヤツリグサ科

高さ10～20cmの多年草。根茎は長く横にはい、節から茎と葉を砂上に出す。葉は細く硬くて光沢がある。花期は4～6月。雌雄異株でどちらも卵形の花穂をつける。砂浜の代表的な植物で県内全域に分布する。



ハマニガナ
キク科

多年草。葉だけを砂上に広げ、地下茎は長く深く地中に伸びる。4～10月に葉のつけねから花茎をだして黄色の花をつける。砂丘の最も不安定地に生える。県内全域に分布し砂浜ではふつうにみられる。



ウンラン
ゴマノハグサ科

高さ20～30cmの多年草。全体的に白味をおび、茎は斜上またはほふくする。花期は8～10月。茎の上部に白色で中央部が黄色い花をつける。鹿嶋、東海村などに多くみられる。



シロヨモギ
キク科

高さ20～60cmの多年草。地下茎を長く伸ばす。全体に白色の毛を密生し、花のない時は砂上に平たく展開しているが、7～10月になると茎が伸びだし花を密につける。伊師や豊岡などでみられ、鹿嶋が分布の南限となっている。



オカヒジキ
アカザ科

高さ10～40cmの1年草。茎は下部から枝を張って広がり葉は肉質で先はとげ状になる。若い茎や葉は食用となる。花期は7～10月で葉のつけねに緑色の小花をつける。北茨城や鹿嶋の砂浜でまばらにみられる。

砂浜の植物



ハマグルマ
キク科 別名：ネコノシタ

ほふく性の多年草。茎は長く砂上をはい節から根を下ろす。葉は厚く猫の舌のようにざらつく。7~10月に茎の上部に黄色い花をつける。波崎、鹿嶋などではふつうに見られるが日立が分布の北限となっている。



ハマボウフウ
セリ科

高さ5~10cmの多年草。葉は厚く光沢があり根は太く砂中に深く伸びる。6~7月に中心から茎を出し白い小花を密生する。若葉は食用となり刺身のつまなどに用いられる。県内全域に分布するが数は多くない。



ケカモノハシ
イネ科

高さ30~70cmの多年草。茎はやや太くて硬く、基部で枝分かれして株立ちとなる。花期は7~9月。茎の先に花穂が2本であるが、互いに接して1つの穂のように見える。鹿島灘沿岸に多くみられる。



オニシバ
イネ科

ほふく性の多年草。根茎は地下を横にはい節から茎をだして直立する。葉は鋭くとがり硬い。6~8月に紫色を帯びた穂をつける。波崎など鹿島灘沿岸に多くみられる。



ハマニンニク
イネ科

高さ50~100cmの多年草。茎はやや太くそう生し、根茎は長く横をばう。花期は6~7月。茎の先に直立する花穂をつける。県内全域でふつうにみられ砂丘安定のために植栽されることもある。



コウボウシバ
カヤツリグサ科

高さ10~20cmの多年草。太く長い地下茎が砂中をのび、赤褐色のひげ根を多数出す。花期は6~7月。茎頂に雄花穂その下に雌花穂をつける。県内全域に分布し内陸の砂地にも生える。

砂浜の植物

砂浜の植物



ピロードテンツキ
カヤツリグサ科

高さ10~30cmの多年草。根茎は斜上し太くて短い。葉は多数そう生し硬く、絹状の毛が密生する。花期は7~9月。茎の先に3~10個の小穂からなる花穂をつける。波崎などにまばらに分布し東海村を北限としている。



ツルナ
ツルナ科

高さ40~60cmの多年草。全体に肉質で若葉は食用となる。花期は4~11月で葉のつけねに小花をつけるが、花弁はなくがく片が黄色い。富栄養地を好む。



ハマゴウ
クマツヅラ科

落葉低木。茎は長く砂上や砂中をはい、節から根を下ろす。枝は直立または斜上し高さ30~70cmになる。花期は7~9月で枝先に紫色の唇形花をつける。果実には香気がある。伊師、大洗などでみられる。



スナビキソウ
ムラサキ科

高さ25~30cmの多年草。長い地下茎をもち、葉は厚く全体に軟毛を密生する。5~8月に白色で香りのある花をつける。有機質を含む砂浜に生え波崎などでみられる。



ハマエンドウ
マメ科

つる性の多年草。茎は砂上をはい長さ1mほどになり先端が斜上する。長い地下茎を持つ。葉は3~5対の小葉からなりその先端は巻ひげとなる。花期は4~7月。葉のつけねから長い柄を出し赤紫色の花をつける。花は後に青色に変わる。県内のほぼ全域に分布している。



ハマアカザ
アカザ科

高さ40~60cmの1年草。茎は斜上するか直立し、葉は3角状卵形でやや厚い。花期は8~10月。枝先に穂を出し密に緑色の花をつける。鹿嶋などでみられる。